

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、医療の現場で働く社会人、具体的には看護師、診療情報管理士、医療情報技師、医事や経営分析担当者といったコメディカルスタッフにおいて、膨大な診療現場の情報を科学的に分析でき、専門領域を超えた思考力を発揮できる能力を備え、やらされではなく、自ら課題を発見し能動的に課題を解決できる人材の育成です。われわれはこれを医療サーブスイノベーターと称しています。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

わかり易い例を挙げると、医療事故が起こるたびにマニュアルを作れば、マニュアルが増えるばかりです。領域を超えた基礎的な思考力を鍛えることが、医療事故の減少に貢献すると考えます。

―なぜこの3大学で連携することになったのですか。

宮崎大学と久留米大学は、大学病院を抱え、地域の医療人と密接につながっています。北陸先端科学技術大学院大学は、優れた教育プログラム開発能力があります。また、宮崎大学の医療情報と久留米大学のバイオ統計は、とくに進んでいます。これらの強みの連携が、本取組の特色です。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は、看護師、診療情報管理士、医療情報技師、医事や経営分析担当者といった職種ごとのニーズを調査し、医療サーブスイノベーター育成のための基礎科目を開発します。平成25年度以降、科目数を増やし、大学院修士課程でコースを立ち上げます。さらに、公開授業（一科目だけの科目等履修生制度）を開きます。補助終了後も教育を継続し、3大学共同教育組織の設置、他大への波及と発展させます。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

医療の現場で働く社会人に、専門領域を超えた基礎的な思考力を身につける学修の場を提供できるようにあります。このようなニーズは各分野で顕著になりつつあり、看護師教育では、管理者養成のための認定看護管理者制度が立ち上がって

います。診療情報管理士教育では、診療情報管理士指導者制度が発足しています。それらに共通する専門領域を超えた思考力を鍛える場を提供するのが本取組の最大の効果です。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思います。それはどのようなものですか。

宮崎大学では、電子カルテを教材として発展させます。久留米大学では、バイオ統計を通じて、科学的思考力を育てるプログラムを開発します。北陸先端科学技術大学院大学では、サーブスサイエンスを医療に応用し、さらに発展させます。いずれも、これまでの活動があって初めて実施できるものです。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

成果指標として、このような教育を受けた学生数があります。しかし、社会人が働きながら大学院に入学する人数は限りがありません。よって、科目等履修生制度により、毎年100名を目標に教育を行いたいと思っています。これらの受講生は、それぞれの職場でリーダーとなり、さらに多くのスタッフを育てていくことでしょう。

### ステークホルダーからのメッセージ

宮崎県医師会 会長

稲倉 正孝

宮崎県では、医師の地域・診療科による偏在のため地域医療は崩壊の危機にあります。医師だけが頑張れば良いとはとても言えない状況です。医療連携を強めてチーム医療を推進する必要があります。そのためには、地域の要望に答えられるような優れたコメディカルの人材育成が必要であると考えます。

